

総合評価結果報告書

施設の名称	静岡市生涯学習センター、南部勤労者福祉センター及び小鹿老人福祉センター		
課名	生涯学習推進課、商業労政課、高齢者福祉課		
指定管理者名	公益財団法人 静岡市文化振興財団		
指定期間	平成31年4月1日 ～ 令和6年3月31日		
評価委員会 開催年月日	令和5年 5月 30日（火）		
評価委員 ※（ ）内は職名 等を記載してく ださい。	①委員長 島田 裕介（生涯学習推進課長） ②委員 角替 弘規（静岡県立大学食品栄養科学部教授） ③〃 千野 和子（公益財団法人ふじのくに未来財団専務理事） ④〃 杉原 義人（高齢者福祉課長） ⑤〃 渡辺 直樹（商業労政課雇用労働政策担当課長）		
評価点 (各委員平均点)	88点	評価	A・ B ・C・D・E
評価結果詳細	別紙「総合評価結果総括表」のとおり		
総合評価結果を踏 まえての施設所管 課としての意見	<p>総合評価では、各施設の設置目的及び管理運営に関する方針に沿った運営がされており、概ね仕様書・事業計画書どおりに事業が遂行されていると評価を受けた。新型コロナウイルス感染症の影響がある中、施設管理や講座開催に工夫が見られ、利用者は減少したものの、ニーズの変化に対応した努力が認められた。早期に、かつての状況に戻せるよう、引き続き取り組んでいただきたい。</p> <p>講座等の事業については、多様な事業が展開されていることから、今後も継続するとともに、より一層、利用者のニーズの把握に努め、新たな利用者層の開拓や利用率向上に向け、より効果的な取り組み及び、各種媒体の効果的な利用を期待したい。</p> <p>また、地域住民と連携した事業や、SDGsを目標設定に置いている点に高い評価を受けた。現状に満足することなく、非営利組織をはじめとした多様なパートナーとの連携や、新規利用者の開拓を促すような思い切った企画等、新たな事業の展開にもチャレンジしていただきたい。</p>		

総合評価結果総括表

施設 の 名 称 [静岡市生涯学習センター、南部勤労者福祉センター及び小鹿老人福祉センター]

課名 [生涯学習推進課、商業労政課、高齢者福祉課]

指定管理者名 [公益財団法人 静岡市文化振興財団]

	A 評価 委員	B 評価 委員	C 評価 委員	D 評価 委員	E 評価 委員	平均 点
1 履行状況の確認	【配点50点】					
(ア) ①施設の設置目的及び管理運営に関する方針に沿った運営がされている。(生涯学習センター)	8	8	10	8	10	8.8
(ア) ②施設の設置目的及び管理運営に関する方針に沿った運営がされている。(来てこ)	4	4	5	4	5	4.4
(イ) ①事業計画に示した講座・教室等が実施されている。(生涯学習センター)	4	4	5	4	5	4.4
(イ) ②事業計画に示した講座・教室等が実施されている。(南部勤労者福祉センター)	4	4	5	4	5	4.4
(イ) ③事業計画に示した講座・教室等が実施されている。(小鹿老人福祉センター)	4	4	5	4	5	4.4
(ウ) 施設の保守・管理・点検等の維持管理業務が適切に実施されている。	4	5	5	5	5	4.8
(エ) 事務事業事故や災害等の危機管理が適切に実施されている。	5	5	4	4	5	4.6
(オ) 業務を適切かつ円滑に行うための経済的基礎を有しており、適切な会計処理がされている。	5	5	5	5	4	4.8
(カ) 効果的な広報媒体を使用し、市民への情報発信が実施されている。	3	3	4	4	5	3.8
小 計	41	42	48	42	49	44.4
2 指定管理者の創意工夫	【配点15点】					
(ア) 職員の専門性の向上に資する取り組みや、社会情勢の変化に適応、施設の特徴を活かす、行政機関や他の施設との連携など、工夫した事業が実施されている。(生涯学習センター)	4	4	5	5	5	4.6
(イ) 勤労者等のニーズ分析に基づき、勤労者等の文化教養の向上、健康増進及び余暇利用の充実に資する事業が実施されている。(勤労者福祉センター)	4	4	4	4	5	4.2
(ウ) 高齢者福祉に関する現代的課題に対応した事業が実施されている。(小鹿老人福祉センター)	4	4	4	4	5	4.2

小 計	12	12	13	13	15	13
3 市民（利用者）のサービスの向上	【配点15点】					
(ア) 利用者の満足度調査を実施し、要望や苦情等に対する適切な対応が行われている。	5	5	4	5	5	4.8
(イ) 施設の利用状況、稼働状況を把握し取り組みが実施されている。	8	10	8	8	10	8.8
小 計	13	15	12	13	15	13.6
4 施設固有の評価項目	【配点20点】					
(ア) 市直営又は他の管理者が管理する施設との複合施設については、関係者との調整を行い円滑な施設運営に努めている。	8	6	10	10	10	8.8
(イ) 施設の複合である特性を活かした運営に努めている。(来てこのみ)	4	3	5	4	5	4.2
(ウ) 地域住民や団体と連携協働した生涯学習事業が実施されている。	3	4	4	4	5	4
小 計	15	13	19	18	20	17
合 計	81	82	92	86	99	88

※ 評価委員名は記載しない

※ 平均点は、少数点以下第2位を四捨五入する。

各評価委員の所見のまとめ（※各評価委員の所見をそのまま記載してください。）

<p>【A評価委員】</p> <p>施設の管理運営は、利用者の声に耳を傾け、おおむね良好に行われている。生涯学習事業や社会教育事業は、コロナ禍の指定管理期間であっても、幅広い視点による創意工夫が見受けられ、地域における生涯学習の拠点として求められる役割を十分果たしている。</p> <p>価値観やライフスタイルの多様化、デジタル化の進展などにより社会が動いているなか、今後は、事業内容の改善とともに市民への広報について、現状に満足することなく、新たな利用者層の開拓や利用率向上に向け、より効果的な取り組みとなるよう期待したい。</p>
<p>【B評価委員】</p> <p>令和元年度から令和4年度は新型コロナ感染拡大の影響もあって、施設の休館等を余儀なくされるなど、非常に困難な時期を含んでいる。そうした中であっても、様々な創意と工夫によって諸施設を運営されたことは非常に意義深く、そのこと自体、高く評価されるべき事柄であると考えられる。とりわけコロナ禍によって社会における分断が進む中において、生涯学習センターをはじめとする諸施設は、社会的分断を食い止め、人々のつながりを維持する上で極めて重要な機能を発揮することが期待され、事実そうした働きが認められる。</p>

今回のコロナ禍によって得られた教訓を今後に活かし、さらにこれまで諸施設にアクセスしなかった人々、アクセスしにくかった人々にも光を当て、多くの市民の方々が安心して利用できる環境整備に注力していただきたい。

【C評価委員】

市内多くの公共施設の指定管理をされているので、指定管理者としての施設の運営管理に関しては大きな信頼が持てます。またSDGsを目標設定に置いている点も、未来都市静岡市ならではの取り組みだと高く評価できます。地域と連携した取り組みはたいへん興味深いと思います。ただ、講座等の企画が固定化し、一連の関係施設や団体間で完結している印象があります。新しいパートナーとの連携にチャレンジすることを期待します。

成果として、どうしても数値が求められがちですが、質的な成果や中長期的な成果も示すことで安価なカルチャークラブ的な側面が払拭できると思います。社会課題や地域課題に取り組むユニークな講座もあるので、コミュニティカレッジ的な要素を高めていただきたいと思います。

【D評価委員】

総合的に、大きな問題点は見当たらず、管理・運営は良好であると評価しました。

【E評価委員】

各施設の管理運営は適切に行われている。

また、新たな講座の実施、地域住民や団体と連携した事業など、地域に根差した運営が行われている。

その他も含め、全体的に施設の設置目的を十分に満たす運営が行われている。

評価委員会としての意見

全体として、施設の管理運営は適切に実施されている。

新型コロナウイルス感染症の影響がある中、施設管理や講座開催に様々な工夫がされており、地域における生涯学習の拠点として、諸施設を運営されたことは、高く評価できる。感染症拡大に伴い、利用者は減少したものの、ニーズの変化に対応した努力が認められる。

事業内容については、概ね計画どおりに事業が遂行されている。多様な事業が展開されていることから、今後も継続するとともに、より広く、多くの方々に周知し、新たな利用者層の開拓や利用率向上に向け、より効果的な取り組みがされることを期待する。

創意工夫については、多くの施設で指定管理を受けている静岡市文化振興財団だからこそその強みが活かされている。現状でも十分であると認められるが、新たな利用者の開拓を促すような思い切った企画や、多様なパートナーとの連携した事業の実施がされることを期待する。